

## 高梁・新見地域認知症疾患医療センター地域連携会議（高梁部会）議事録

日時：令和4年5月23日（月）

18：00～19：30

場所：高梁市役所3階大会議室

出席者（14名）

高梁医師会2名、岡山県介護支援専門員協会高梁支部1名、高梁市健康福祉部地域包括支援センター2名、岡山県備北保健所1名、岡山県備中県民局健康福祉部1名、岡山県健康福祉課長寿社会班1名、たいよの丘ホスピタル6名

1. 開会 部会長 まつうらクリニック 松浦先生より挨拶

2. 岡山県認知症疾患医療センター実績報告

たいよの丘ホスピタル 児玉センター長より

3. 意見交換

(1) 高梁・新見地域認知症疾患医療センター地域連携会議

任期更新に伴うメンバー変更の確認

(2) 高梁部会研修会

令和3年度は岡山県が実施している『VRシステムを利用した出前研修会』の活用を検討、企画。しかし県内の新型コロナウイルス感染者の増加、それに伴うまん延防止等重点措置発令も相まって開催することが出来なかった。今年度も同様の事業が残っているため実施自体は可能であるが、機材を用い接触が多くなるための感染リスクも懸念される→コロナ禍でも出来る研修会の案も必要。また、昨年度新見ではオンラインでの研修会開催実績があり、高梁でも生かせるのではないかと。

※上記前提の上で、今年度の研修会について下記のような意見が出された

- ・昨年度から認知症理解の啓発を行っている。認知症を自分事として考えてもらうことの難しさがあり、専門職ですら誤解していることがある。正しい知識の普及と理解の必要性があると感じている
- ・コロナは認知症の方へどのような影響があったか。クラスター時の対応の苦労や、感染時の隔離、拘束等の対応の必要性について権利擁護の観点からもどうか気になっている
- ・都市部では診断を受けてもその後が繋がらないことがあり、苦情として聞くことがある。専門職側の接し方について、また、情報をしっかり伝えていける支援体制について考えていくことも出来るのではないかと

- ・困っている人たちのサポートをするけれど、どうしても時にもれ落ちてしまう。目を増やすためにチームオレンジやサポーターの研修を行っても、実際に何をしたらいいのか分からないと感じている人たちがいる

今年度の研修は下記のように行うこととなった

- ・今年度は認知症の正しい知識や理解について考える研修会を行う。専門職に対しては診断後にどのような支援が出来るのか、空白の期間に出来ることは何かを考えられるよう、一般の地域住民やサポーターの方に対しては身近な人が認知症になったらどうすればいいのか確認していけるような場にしていく。
- ・研修の対象を専門職の方、一般の方と分けた内容で、秋頃と年明けでそれぞれ1回ずつの開催を目標に組み立てていく。
- ・専門職対象では事例を用いたグループワーク、一般の方対象では講演もしくはパネルディスカッションの形式を中心に行う。

4. 閉会 たいようの丘ホスピタル 樋口院長より挨拶